

■第5回 江別市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)策定に係る協議会でいただいたご意見の概要 <令和6年1月24日実施>

【第1章 計画策定の基本的な考え方】

- P.4 の計画策定の目的について、前のページに書かれている内容と一部被っている箇所が多いので、そういった箇所は「前述のとおり」とした方が良いと思う。

【1 地球環境】

- P.31 「⑦再生可能エネルギー」について、ここだけ「市内では」という記載になっているので、他と合わせて「江別市では」とした方が良い。
- P.38 コラムについて、ZEH のメリットとして①経済性、②快適・健康性、③防災性の順で記載しているが、②を先に記載している自治体もあり、何を優先するかで見方が変わってくるように感じる。また、ZEH に関する説明で、「具体的には、家庭で使用するエネルギーを様々な省エネルギーで減らすとともに」の文言に違和感を覚えたので引用元を再確認されたい。
- P.39 施策3の②について、「脱炭素の経営の必要性」という表記だと押し付けのように感じるので「脱炭素経営の重要性」とした方が柔らかい表現になると思う。
- P.39 施策4の③について、「市民ファンド」という言葉はあまり馴染みがないように感じるので、「市民出資」の方が分かりやすいと思う。
- P.41 ①の「ア」について、「家計簿アプリなど」に「で」を追加し、「家計簿アプリなどで」とした方が良い。
- P.41 「ウ」に記載のエコドライブについて、以降のページにコラムとして具体的な方法が書かれていることを明記したほうが親切かと思う。
- P.43 「イ」の三つ目の項目について、ZEB は建物のイメージが強いので、この文言を「ZEB など省エネルギー性能に優れた建物や再生可能エネルギー設備の導入を検討します。」とした方が良いと思う。
- P.43 「イ」の四つ目の内容について、利用のみのところと、供給も可能なところというように、事業者によって違うと感じるので、再生可能エネルギーの利用と供給については文章を分けた方が良いと思う。
- P.43 「エ」の二つ目の項目について、日光を取り入れてその熱を活用することもあるので、「ブラインドやカーテンを活用して窓からの熱の出入りをコントロールするなど…」とした方が良いと思う。
- P.44 成果指標の二つ目について、32ページの図を使って、このような経過を踏まえてこの目標になっているとした方が分かりやすいと思う。

【2 資源循環】

- P.47 現状の四つ目で集団資源回収について記載があるが、これの現状や実績についての記載があった方が良いと思う。
- P.51 施策 1 の二つ目の項目について、それぞれの取組については事業者だけでなく消費者団体などとも協力していると思われるので、他の協力団体についての記述も追加した方が良いと思う。同様に、三つ目の取組についても、この記述だと市だけで行っているような印象を受けるので、「事業者などと協力して」という文言を追加した方が良いと思う。
- P.51 施策 1 の中で「3R+Renewable」の記載があるが、これと同時並行的に行う「サーキュラーエコノミー」という考え方がある。「サーキュラーエコノミー」では、廃棄物が一切出ないこと

と資源を搾取しないという二つの大きな要素があるので、全体のページ数は増えてしまうが内容に取り入れていただければと思う。ちなみに、「サーキュラーエコノミー」は、環境省と経済産業省でとらえ方が少し違っている。環境省は環境に負荷を与えないという考え方がベースに、経済産業省は経済をさらに豊かにするという考え方がベースになっている。計画に取り入れる際には、環境省寄りの書き方になると思う。

【3 自然環境】

- P.55 コラムについて、ネイチャーポジティブについてカッコ書きで「自然再興」とあるが、これだけだと意味が分かりにくいので、資料編で追加説明があった方が良く思う。
- P.56 「③水と緑」について、ここは自然環境に関する現状と課題についての内容なので、このような記載になっていると思うが、CO₂ の吸収量など地球温暖化に関する内容が全く出てこないで、そういった内容もあった方が良く思う。
- P.61 成果指標の一つ目について、野幌森林公園以外の森林はあまり多くないという話を聞いたことがあるので、それらの森林を増やす取組も必要だと思う。

【5 参加・協働】

- P.77 「②事業者の取組」について、一つ目の記述で「職場づくりに努める」の後の「と」が抜けている。

【その他】

- 全体を通して、出典として各ウェブサイトの名称が記載されているが、それだけでは探しづらいので、資料編などに URL を載せた方が良く思う。
- 自治体によっては環境管理計画の中に気候変動適応計画を入れているところもある。（江別市では、環境管理計画に含めていないため、気候変動適応計画については、関係部署とも連携して、策定の有無も含めて今後検討していく。）
- この計画を皆様にもどのように知ってもらおうかというところで、概要版を学校に配るなどして周知するといったことも大事だと思う。また、とても深く、広い意味での実行計画ができたので、これが多くの人に届くと良いと思うし、色々な形で市民の人達はこの計画を知っていただくような機会もこれから作れたら良いと思う。
- 計画のようなものは当然必要であり、これから誰がどのように実行するかが課題だと思う。
- 江別市の環境教育は、情報を集めてみると沢山行われており、市外の人たちからもびっくりされるといったことがある。また、様々な取組をされていることは、素晴らしく先進的なことだが、やはりそれをどのように発信するか、それから市民の方々に、このように素晴らしいことを行っているということを伝えることも今後につながると思う。
- 計画は、作ることが目的ではなく、あくまで手段。これができたことによって次にどうするかというところに進むと思うし、これが一つのマニュアル、教科書となる。
良いものができても動かなければ本当に意味がないということで、酪農学園大学には「知行合一」という建学の精神があり、知っていても行わないのは、知らないことと一緒にという考え方である。

今後は、市民の皆様にもこの計画をどうお伝えしていくか、そして、自分ごとと思いき、動いていただくかということになると思う。様々なツールを使ったり機会を見つけたりして、この計画が皆様に届き、江別市が全国のモデル市になるような形になっていくと非常に嬉しく思う。